

令和5年度子どもの居場所づくり推進事業・放課後子ども教室推進事業に関する報告

課題	左記課題の解決のために本事業で取り組むこと	本事業で達成する目標	目標の達成度を測る指標	本年度の目標値	本年度の実績値	目標の達成度に関する評価・分析
学校の学習はカリキュラムに沿って行う必要があるため、多様な体験学習を取り入れることが難しい。	年間36回の放課後等子ども教室において、児童の興味や特性を伸ばせるような内容の多様な体験学習を実施。	現在行っている放課後等子ども教室の更なる内容の充実化。	教室の満足度を5段階で評価するうち、5をつけた回答の割合。(年度末にアンケートを実施)	80%	94%	<ul style="list-style-type: none"> 様々な内容の教室を実施し、今年度は参加人数が増加した。アンケートでの満足度評価で高い評価を得られた。 また今年度は学習遠足を実施し、外部施設において普段は体験できない学習ができ、アンケート上でも好評であった。 来年度以降も引き続き講師と連携し、趣向を凝らした教室を企画していきたい。
集中力を持続できない児童が増加している。また学校の授業ではじっくりと時間をとって書き方の指導に時間を割くことができない。	町内2か所における硬筆教室の実施。	書き方を丁寧に練習することにより、児童の集中力を養う。	教室に通ったことによって、以前と比べて集中力がついたらと回答した児童の割合。(年度末にアンケートを実施)	80%	84%	<ul style="list-style-type: none"> 1年間教室に参加した児童は、年度初めに比べて集中して取り組む姿がみられ、アンケート結果にも反映された。 特に競書会に向けての練習期間には、授業補助のスタッフを追加し、指導に力を入れた。児童たちが各自の目標に向けて集中して取り組む姿がみられた。 集中して机に向かう習慣を定着させるため、来年度も継続して教室を実施する。アンケートの結果、書き順の指導を充実させてほしい等の要望があったため、内容の充実化についても取り組んでいきたい。
核家族化が進み地域とのつながりが希薄な家庭が増加している。そのため児童と地域住民が交流する機会が減少している。	地域住民が講師やスタッフとなり児童と交流しながら体験学習ができる教室の実施。	児童と地域住民のつながりが生まれる。	地域住民における講師・安全管理員の人数の増加率。	10%	0%	<ul style="list-style-type: none"> 講師・安全管理員の人数を増やすことはできなかった。しかし各事業において昨年度より多くの地域ボランティアに協力を要請した。 通学合宿ではボランティアの方々と食事を作ったり、もらい風呂を実施したりと、地域住民と交流する場面が多くあった。 指標は達成できなかったが、課題の解決に向けた取り組みとして、地域住民との交流の場を設けることができた。